

平成30年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

③課題:機械収穫適性に優れ秋播き小麦の前作物に適した早生小豆品種開発のためのDNAマーカーの開発と新品種導入に対する農家意向調査(30~2年度)
代表者:帯広畜産大学 助教 森 正彦

目的

機械収穫適性に優れ秋播き小麦の前作物に適した早生小豆品種開発のためのDNAマーカーの開発と新品種導入に対する農家意向調査を実施する。

成果

①早生・普通胚軸品種／系統と中生・長胚軸系統の交配後代における遺伝解析

・ちはやひめ(早生)、十育160号、十育161号を交配して作成したF2を用いて検証したところ、胚軸長と成熟期との間には、DNAレベルでの関係性がないことが明らかとなった。

②早生性をもつ系統を選抜するためのDNAマーカーの開発

・早生性を決定する遺伝子座を特定した。

③品種開発時の波及効果検証

・麦の前作物として、収穫期の早い小豆が望まれているが、実際に作付が行われるためには、これまでの輪作体系を変更することがデメリット要因となっている。

葉収穫期の小豆の草姿



注:左から順番に十育160号(早生)、十育161号(長胚軸性)、ちはやひめ(早生)